

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成26年11月11日
【四半期会計期間】	第20期第2四半期（自 平成26年7月1日 至 平成26年9月30日）
【会社名】	株式会社ヒップ
【英訳名】	H I P C O R P O R A T I O N
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 田中 吉武
【本店の所在の場所】	横浜市西区楠町8番地8
【電話番号】	(0 4 5) 3 2 8 - 1 0 0 0
【事務連絡者氏名】	執行役員経理部長 財津 秀明
【最寄りの連絡場所】	横浜市西区楠町8番地8
【電話番号】	(0 4 5) 3 2 8 - 1 0 0 0
【事務連絡者氏名】	執行役員経理部長 財津 秀明
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第19期 第2四半期 連結累計期間	第20期 第2四半期 連結累計期間	第19期
会計期間	自 平成25年4月1日 至 平成25年9月30日	自 平成26年4月1日 至 平成26年9月30日	自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日
売上高 (千円)	2,152,802	2,318,285	4,435,600
経常利益 (千円)	3,910	104,598	166,318
四半期(当期)純利益 (千円)	143	63,515	88,892
四半期包括利益又は包括利益 (千円)	143	66,575	88,892
純資産額 (千円)	1,352,828	1,430,720	1,411,847
総資産額 (千円)	2,970,671	3,205,359	3,069,897
1株当たり 四半期(当期)純利益金額 (円)	0.04	15.98	22.36
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益金額 (円)	-	-	-
自己資本比率 (%)	45.5	44.6	46.0
営業活動による キャッシュ・フロー (千円)	117,344	220,681	13,556
投資活動による キャッシュ・フロー (千円)	78,545	3,939	76,550
財務活動による キャッシュ・フロー (千円)	64,906	57,595	75,193
現金及び現金同等物の 四半期末(期末)残高 (千円)	618,607	869,259	710,113

回次	第19期 第2四半期 連結会計期間	第20期 第2四半期 連結会計期間
会計期間	自 平成25年7月1日 至 平成25年9月30日	自 平成26年7月1日 至 平成26年9月30日
1株当たり四半期純利益金額 (円)	6.03	8.67

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。
3. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間において、当社グループ（当社及び当社の関係会社）が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、新たな事業等のリスクの発生、または、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについて重要な変更はありません。

2【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

3【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループ（当社及び連結子会社）が判断したものであります。

(1) 業績の状況

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、消費税増税による影響はあったものの、政府の景気対策の効果などを背景に企業収益や雇用環境に改善がみられ、景気は緩やかな回復基調で推移しました。当社グループの主要顧客であるメーカーにおいても、開発投資を継続的に進めており、当社グループのアウトソーシング事業への技術者ニーズも引き続き堅調に推移しております。

このような状況のなか、当社グループの中核事業であるアウトソーシング事業では、全国の顧客ニーズ情報を共有し、受注に対して柔軟かつ積極的な営業展開を推進するとともに、新規顧客の開拓を図り、稼働率の向上及び技術料金の改善に努めました。また、旺盛な技術者ニーズに応えるべく、新たな採用体制を構築し、積極的な採用を推進いたしました。その結果、当第2四半期連結累計期間における稼働率は、94.0%（稼働率(%) = 稼働技術者数/技術社員総数 × 100であり、期間の月末人数を累計した数値により算出しております。）と高い水準を維持し、技術料金についても前年同期に比べ上昇しております。

これらの結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は2,318,285千円（前年同四半期比7.7%増）、売上原価は1,866,140千円（同3.3%増）、販売費及び一般管理費は347,349千円（同2.2%減）、営業利益は104,795千円（前年同四半期は8,727千円の営業損失）、経常利益は104,598千円（前年同四半期は3,910千円の経常利益）、税金等調整前四半期純利益は104,598千円（前年同四半期は3,910千円の税金等調整前四半期純利益）、四半期純利益は63,515千円（前年同四半期は143千円の四半期純利益）となりました。

セグメント別の業績は、次のとおりであります。

アウトソーシング事業

当社の主要事業であるアウトソーシング事業では、旺盛な顧客ニーズ情報を全国で共有し、柔軟かつ積極的な営業展開、継続的な技術料金の改善を推進した結果、稼働人員が増加し、技術料金も改善いたしました。その結果、売上高は2,184,451千円（前年同四半期比5.7%増）、営業利益は97,828千円（同246.0%増）となりました。また、9月末時点での稼働率は97.3%と上昇してきており、今後も稼働率の向上に努めるとともに、優秀な技術者の採用に注力し、売上高の拡大と利益率の向上を図ってまいります。

S M O事業

S M O事業につきましては、得意とする皮膚科領域と精神科領域の治験支援業務が順調にすすみました。その結果、売上高は133,833千円（前年同四半期比56.5%増）、営業利益は13,599千円（前年同四半期は30,716千円の営業損失）となり、前年同期から大きく改善いたしました。

(2) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結累計期間における現金及び現金同等物の期末残高は、前連結会計年度末に比べ159,145千円増加し869,259千円となりました。

当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動によるキャッシュ・フローは、税金等調整前四半期純利益、賞与引当金及び未払消費税等の増加等により220,681千円の収入となりました。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動によるキャッシュ・フローは、固定資産の取得による支出により3,939千円の支出となりました。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動によるキャッシュ・フローは、配当金の支払い、短期借入金の返済により57,595千円の支出となりました。

(3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第2四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。

(4) 研究開発活動

該当事項はありません。

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	13,500,000
計	13,500,000

【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間末現在発行数(株) (平成26年9月30日)	提出日現在発行数(株) (平成26年11月11日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	3,975,300	3,975,300	東京証券取引所 JASDAQ (スタンダード)	単元株式数 100株
計	3,975,300	3,975,300	-	-

(2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総 数増減数 (株)	発行済株式総 数残高(株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金増 減額(千円)	資本準備金残 高(千円)
平成26年7月1日～ 平成26年9月30日	-	3,975,300	-	377,525	-	337,525

(6)【大株主の状況】

平成26年9月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (株)	発行済株式総数に 対する所有株式数 の割合(%)
株式会社ベストプランニング	岐阜県瑞穂市1107 1	1,000,000	25.15
田中 吉武	岐阜県瑞穂市	642,500	16.16
ヒップ従業員持株会	神奈川県横浜市西区楠町8-8	418,900	10.53
田中 佐津枝	岐阜県瑞穂市	91,800	2.30
野口 健一	神奈川県秦野市	75,500	1.89
岩崎 篤二	東京都荒川区	60,000	1.50
株式会社神奈川銀行	神奈川県横浜市中区長者町9-166	45,000	1.13
株式会社横浜銀行 (常任代理人 資産管理サービス 信託銀行株式会社)	神奈川県横浜市西区みなとみらい3-1-1 (東京都中央区晴海1-8-12 晴海アイランドトリトンスクエア オフィスタワーZ棟)	45,000	1.13
東京海上日動火災保険株式会社	東京都千代田区丸の内1-2-1	45,000	1.13
日本生命保険相互会社	東京都千代田区丸の内1-6-6 日本生命証券管理部内	37,000	0.93
計	-	2,460,700	61.89

(7) 【議決権の状況】

【発行済株式】

平成26年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	-	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 3,974,800	39,748	-
単元未満株式(注)	普通株式 500	-	-
発行済株式総数	3,975,300	-	-
総株主の議決権	-	39,748	-

(注) 「単元未満株式」の欄には自己株式59株が含まれております。

【自己株式等】

平成26年9月30日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数(株)	他人名義所有株式数(株)	所有株式数の合計(株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
-	-	-	-	-	-
計	-	-	-	-	-

2 【役員の状況】

前事業年度の有価証券報告書提出日後、当四半期累計期間における役員の異動は、次のとおりであります。

(1) 新任役員

役名	職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数(株)	就任年月日
監査役		得丸 大輔	昭和14年1月4日生	平成8年4月 弁護士登録 竹内澄夫法律事務所入所 平成11年6月 マネックス株式会社監査役 平成20年1月 井垣法律特許事務所入所 (現任) 平成26年6月 当社監査役就任(現任)	(注)	-	平成26年6月29日

(注) 退任した監査役の補欠として就任したため、任期は前任者の任期満了の時である平成30年3月期に係る定時株主総会の終結の時までであります。

(2) 退任役員

役名	職名	氏名	退任年月日
監査役		加藤 碩孝	平成26年6月29日

(3) 役職の異動

該当事項はありません。

第4【経理の状況】

1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間（平成26年7月1日から平成26年9月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（平成26年4月1日から平成26年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表について、新日本有限責任監査法人による四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】

(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成26年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	710,113	869,259
受取手形及び売掛金	598,564	605,682
仕掛品	29,562	16,266
繰延税金資産	86,872	86,872
その他	35,373	34,518
流動資産合計	1,460,486	1,612,599
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	512,427	492,206
減価償却累計額	159,822	146,917
建物及び構築物(純額)	352,604	345,288
車両運搬具	6,577	6,577
減価償却累計額	6,577	6,577
車両運搬具(純額)	0	0
工具、器具及び備品	57,097	41,391
減価償却累計額	52,299	36,344
工具、器具及び備品(純額)	4,798	5,046
土地	968,059	968,059
有形固定資産合計	1,325,462	1,318,394
無形固定資産		
のれん	119,357	112,726
その他	3,253	5,118
無形固定資産合計	122,611	117,844
投資その他の資産		
投資有価証券	7,004	7,004
繰延税金資産	95,735	94,086
その他	60,397	57,230
貸倒引当金	1,800	1,800
投資その他の資産合計	161,338	156,521
固定資産合計	1,609,411	1,592,760
資産合計	3,069,897	3,205,359

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成26年9月30日)
負債の部		
流動負債		
短期借入金	660,000	650,000
未払費用	304,068	322,300
未払法人税等	29,865	43,510
賞与引当金	201,841	229,351
その他	96,430	157,175
流動負債合計	1,292,205	1,402,337
固定負債		
退職給付に係る負債	259,136	272,788
役員退職慰労引当金	106,708	99,514
固定負債合計	365,844	372,302
負債合計	1,658,050	1,774,639
純資産の部		
株主資本		
資本金	377,525	377,525
資本剰余金	337,525	337,525
利益剰余金	726,527	742,339
自己株式	23	23
株主資本合計	1,441,553	1,457,366
その他の包括利益累計額		
退職給付に係る調整累計額	29,706	26,646
その他の包括利益累計額合計	29,706	26,646
純資産合計	1,411,847	1,430,720
負債純資産合計	3,069,897	3,205,359

(2)【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)
売上高	2,152,802	2,318,285
売上原価	1,806,395	1,866,140
売上総利益	346,406	452,145
販売費及び一般管理費		
役員報酬	45,618	43,419
給料及び賞与	135,968	136,300
賞与引当金繰入額	15,790	15,053
退職給付費用	1,022	1,707
役員退職慰労引当金繰入額	4,929	4,547
法定福利費	24,652	24,358
採用費	13,125	14,001
旅費及び交通費	7,380	6,794
支払手数料	37,144	33,293
地代家賃	24,362	24,457
減価償却費	2,130	2,270
のれん償却額	6,630	6,630
その他	36,376	34,513
販売費及び一般管理費合計	355,134	347,349
営業利益又は営業損失()	8,727	104,795
営業外収益		
受取利息	234	199
受取配当金	50	50
受取手数料	911	880
受取保険金	-	747
助成金収入	14,790	-
その他	317	722
営業外収益合計	16,303	2,600
営業外費用		
支払利息	3,164	2,797
その他	500	-
営業外費用合計	3,665	2,797
経常利益	3,910	104,598
特別損失		
固定資産除却損	-	0
特別損失合計	-	0
税金等調整前四半期純利益	3,910	104,598
法人税等	3,766	41,082
少数株主損益調整前四半期純利益	143	63,515
四半期純利益	143	63,515

【四半期連結包括利益計算書】
 【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益	143	63,515
その他の包括利益		
退職給付に係る調整額	-	3,060
その他の包括利益合計	-	3,060
四半期包括利益	143	66,575
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	143	66,575
少数株主に係る四半期包括利益	-	-

(3)【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	3,910	104,598
減価償却費	9,205	9,275
のれん償却額	6,630	6,630
長期前払費用償却額	674	86
賞与引当金の増減額(は減少)	4,179	27,509
退職給付引当金の増減額(は減少)	8,993	-
退職給付に係る負債の増減額(は減少)	-	18,362
役員退職慰労引当金の増減額(は減少)	4,929	7,194
受取利息及び受取配当金	284	249
支払利息	3,164	2,797
固定資産除却損	-	0
売上債権の増減額(は増加)	17,615	7,118
たな卸資産の増減額(は増加)	5,461	13,286
前払費用の増減額(は増加)	2,511	1,348
差入保証金の増減額(は増加)	483	3,100
その他の資産の増減額(は増加)	362	2,339
預り金の増減額(は減少)	6,418	3,499
未払費用の増減額(は減少)	15,896	18,231
未払金の増減額(は減少)	59,955	3,673
未払消費税等の増減額(は減少)	9,306	63,199
前受金の増減額(は減少)	33,938	1,771
その他の負債の増減額(は減少)	707	367
小計	66,154	251,195
利息及び配当金の受取額	147	114
利息の支払額	3,183	2,809
法人税等の支払額	48,154	27,819
営業活動によるキャッシュ・フロー	117,344	220,681
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の払戻による収入	80,000	-
有形固定資産の取得による支出	979	1,539
無形固定資産の取得による支出	475	2,400
投資活動によるキャッシュ・フロー	78,545	3,939
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額(は減少)	20,000	10,000
長期借入金の返済による支出	37,574	-
配当金の支払額	47,332	47,595
財務活動によるキャッシュ・フロー	64,906	57,595
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	103,705	159,145
現金及び現金同等物の期首残高	722,312	710,113
現金及び現金同等物の四半期末残高	618,607	869,259

【注記事項】

(継続企業の前提に関する事項)

該当事項はありません。

(会計方針の変更)

(退職給付に関する会計基準等の適用)

「退職給付に関する会計基準」(企業会計基準第26号 平成24年5月17日。以下「退職給付会計基準」という。) 及び「退職給付に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第25号 平成24年5月17日。以下「退職給付適用指針」という。) を、退職給付会計基準第35項本文及び退職給付適用指針第67項本文に掲げられた定めについて第1四半期連結会計期間より適用し、退職給付債務及び勤務費用の計算方法を見直し、割引率の決定方法を従業員の平均残存勤務期間に近似した年数に基づく割引率を使用する方法から、退職給付の支払見込期間及び支払見込期間ごとの金額を反映した単一の加重平均割引率を使用する方法に変更しております。

これに伴う第1四半期連結会計期間の期首の利益剰余金及び当第2四半期連結累計期間の営業利益、経常利益及び税金等調整前四半期純利益に与える影響はありません。

(四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理)

(税金費用の計算)

税金費用については、当第2四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

なお、法人税等調整額は、法人税等に含めて表示しております。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は、次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成25年4月1日 至 平成25年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成26年4月1日 至 平成26年9月30日)
現金及び預金勘定	618,607千円	869,259千円
現金及び現金同等物	618,607千円	869,259千円

(株主資本等関係)

前第2四半期連結累計期間(自平成25年4月1日至平成25年9月30日)

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成25年6月27日 定時株主総会	普通株式	47,703	1,200	平成25年3月31日	平成25年6月28日	利益剰余金

当第2四半期連結累計期間(自平成26年4月1日至平成26年9月30日)

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成26年6月26日 定時株主総会	普通株式	47,702	12	平成26年3月31日	平成26年6月27日	利益剰余金

(注) 当社は、平成25年4月1日付けで普通株式1株につき100株の株式分割を行っております。

(セグメント情報等)

(セグメント情報)

前第2四半期連結累計期間(自平成25年4月1日至平成25年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	アウトソーシング事業	S MO 事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	2,067,281	85,520	2,152,802	-	2,152,802
セグメント間の内部 売上高又は振替高	-	-	-	-	-
計	2,067,281	85,520	2,152,802	-	2,152,802
セグメント利益又は損失()	28,271	30,716	2,445	6,282	8,727

(注)1.セグメント利益又は損失()の調整額 6,282千円は、セグメント間取引消去348千円、のれん償却額 6,630千円であります。

2.セグメント利益又は損失()は、四半期連結損益計算書計上額の営業損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

当第2四半期連結累計期間(自平成26年4月1日至平成26年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	アウトソーシング事業	S MO 事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	2,184,451	133,833	2,318,285	-	2,318,285
セグメント間の内部 売上高又は振替高	-	-	-	-	-
計	2,184,451	133,833	2,318,285	-	2,318,285
セグメント利益	97,828	13,599	111,428	6,632	104,795

(注)1.セグメント利益の調整額 6,632千円は、セグメント間取引消去 1千円、のれん償却額 6,630千円
であります。

2.セグメント利益は、四半期連結損益計算書計上額の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)
1株当たり四半期純利益金額	0円4銭	15円98銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益金額(千円)	143	63,515
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株式に係る四半期純利益金額(千円)	143	63,515
普通株式の期中平均株式数(株)	3,975,300	3,975,241

(注)潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりませ
ん。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2【その他】

該当事項はありません。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成26年11月11日

株式会社ヒップ

取締役会 御中

新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員 公認会計士 毛利 篤 雄 印
業務執行社員

指定有限責任社員 公認会計士 奥 見 正 浩 印
業務執行社員

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社ヒップの平成26年4月1日から平成27年3月31日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間（平成26年7月1日から平成26年9月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（平成26年4月1日から平成26年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社ヒップ及び連結子会社の平成26年9月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。

2. XBR Lデータは四半期レビューの対象には含まれていません。